

中和泉児童遊園に植栽 コミュニティガーデン

狛江市菊花会（寺西政男代表）が中和泉児童遊園でコミュニティガーデン活動を行っている。

昭和35年の発足以来、菊の普及発展を目的に栽培技術の向上に取り組んでいる同会が、行政提案型市民協働事業として活動している。同会有志が276.31㎡の公園内に約60本の菊が並ぶエリアや箱庭風、季節の花などによる花壇作りを行っている。土壌改良や菊の性質に合わせて植え付け場所を変えるなど試行錯誤を重ねながら、地域のいこいの場作りを目指している。

問い合わせ☎3489-3769寺西さん。



中和泉児童遊園

95歳が達者な踊り披露 地域交流いきいき大会

狛江市老人クラブ連合会が10月15日団にエコルマホールで地域交流いきいき大会を開催、高齢者たちが若々しい演技や歌を披露、会場からは盛んな拍手や声援が送られていた。

95歳の清水千寿子さんは第一長寿会会長の野口スミ子さんの歌に合わせて達者な踊りを披露、年齢を感じさせない動きに大きな拍手が送られていた。清水さんは「60歳から野口さんの指導で本格的に舞踊を始めました。100歳を目指して踊り続けたい」と話していた。



野口さん(左)と清水さん

9日から秋の火災予防運動 自宅にマイ消火器設置を

秋の火災予防運動が9日団から15日団まで行われる。

Start & Challenge

マラソンフェスティバルの参加者を募集

市内外のランナーに狛江の良さや走る楽しさを知ってもらおうと、12月20日団に催される「第4回狛江マラソンフェスティバル」(同実行委員会主催)の参加者を募集している。

年1回年末に多摩川緑地公園グラウンドを起点に調布市の京王閣付近まで多摩川沿いを走る大会で、今年は市民公益活動事業補助金チャレンジ補助金を受けて開催する。ハーフマラソンやチームによるリレーマラソンなど、子どもから大人、初心者から愛好家まで幅広い人が気軽に走りを楽しむことができると好評。また、陸上競技の体験会などのイベントも行う予定だ。

今年の種目は「男女一般ハーフマラソン(参加費5,000円)」 「混合ハーフリレーマラソン(1km×21周、1チーム2～10人、15,000円)」 「男女一般10km(4,500円)」 「親子1km(2人1組、2,500円)」 「小学生リレーマラソン(500m×10周、1チーム2～10人、5,000円)」 。定員350人で、申込は12月11日団までに二次元コード(→)から。

問い合わせMinfo@nr-project.com同会。



昨年のマラソンフェス

12月から3月は火災が多発する時期で東京消防庁管内では昨年、2,151件の火災が発生した。

この時期は空気が乾燥し、火災が発生しやすくなるため、①寝たばこは絶対にしない②ストーブの周囲に燃えやすい物を置かない③コンロの使用中はその場から離れない④電気コードは家具などの下敷きにせず、折り曲げないなど防火のポイントに留意し、火の取り扱いに注意が必要だ。(二次元コード→)

狛江消防署では、火災が発生した際に消火器を使うと、使わなかった場合に比べて約7割以上で被害を軽減する効果があったとして自宅にマイ消火器を備えるよう呼びかけている。(二次元コード→)

問い合わせ☎3480-0119狛江消防署。

内モンゴルの餃子作り体験 国際交流協会が交流サロン

料理を通じて外国の人との相互理解を深めようと、狛江市国際交流協会(吉野琢也会長)が9月19日団にこまえみらいテラスで国際交流サロン「内モンゴル料理を楽しもう!」を開催、小学生からシニアまで約40人が料理作りや交流イベントを楽しんだ。

内モンゴル出身の馬蕭然さんや中国に留学経験のある人など3人が餃子作りを指導した。参加者は小麦粉で餃子の皮を作った後、羊肉と牛肉の水餃子、エビなどの海鮮とニラを使った焼餃子の調理に取り組んだ。

試食では餃子に加え、馬さんが持参した羊肉とジャガイモ炒め、お茶



餃子を作る参加者

Shop & Service Guide ...61

いらっしゃいませ

(有)アド美廣

有限会社アド美廣は看板の設計・デザイン・制作、施工・取付工事、修理・メンテナンス、店舗施工などを行う企業PRの専門会社。年内には新たに一般向けのTシャツや袋物など布のプリント・加工も始める。

代表取締役の藤森季美社長(76)は18歳で上京、デザイン専門学校で学んだ後、大手園芸会社にデザイナーとして入社。そこで御台橋にあった下請けの看板屋の親

企業等の看板を一貫して手がける 布のプリント・加工も年内に開始



佐々木さん(左)と藤森さん

☎5761-9079 岩戸北3-11-7日東綜業工業団地6号館B 営業時間=午前9時～午後6時 日曜日・祝日休み

味ゆで卵を味わった。また、馬さんの指導で中国茶の入れ方を体験、なごやかに交流を深めた。

雨でも冷めず熱気球人気 こまえミズベミライFes.

こまえミズベミライFes. ～with登戸の渡し～が9月26日団に多摩川緑地公園グラウンド東側の多摩川



気球の説明を聞く参加者

河川敷で催された。

この日は朝から雨に見舞われたため、熱気球の係留飛行や川崎市側の登戸の渡し中止となった。

それでも会場では直径約12mにもなる熱気球に空気を送って膨らませたり、バーナーを操作して大きな炎を上げたりするデモンストラクションが行われ、訪れた子どもたちは「この次はぜひ乗ってみたい」などと話して喜んでいました。熱気球の搭乗体験には100人の定員に対して約7倍の応募が寄せられたほどの人気だった。

戦没者・戦災殉難者追悼式 菊の花を手向けて平和誓う

戦没者・戦災殉難者追悼式が9月27日団に西河原公園にある戦没者慰霊塔前で開催された。

式には狛江市戦没者遺族会の武藤孝行会長、松原俊雄市長ら遺族や関係者などが数十人が参列、菊

方と親しくなり、仕事のおもしろさを知って看板屋に転職した。ただ、当時は第一次オイルショックで仕事がなく、自分で看板や店舗の内装の仕事を開拓するとともに、国家資格の屋外広告士や特殊電気工事資格

者など様々な資格を取得した。昭和55年に店が町田へ移転したのを機会に独立。世田谷区を中心に業務を手がけ、約30年前に現在の場所に移転した。

これまでに首都圏の企業の看板や案内サイン、LED装飾など数々の仕事を担当、狛江市では市清掃課や狛江市社会福祉協議会の案内サインなどを手がけた。

藤森社長の長女で専務の佐々木美輪さんは経理などの事務に加え、現場にも出て作業を行っている。佐々木さんは子どもの頃から仕事を手伝い、高校卒業後に入社、子育て中を除いて仕事を続けてきた。

看板のデザインや加工は主に藤森社長が担当しているが、佐々木さんの長女が大学でパッケージデザインなどを学んでおり、将来は看板だけでなく、商品デザインなど、新たな業務を開拓したいという。

また、佐々木さんが担当し、布のプリント・加工の設備を導入する準備を進めている。Tシャツや袋物、ワッペンなどのプリントの注文を少量から受け付けるほか、いずれは自社デザインのオリジナル商品を販売したいという。

小学生時代に狛江で育った佐々木さんは、狛江市商工会青年部の奉仕活動に力を入れるほか、バレーボールやゴルフなど地域スポーツでも活躍している。



慰霊碑に献花する遺族

の花を手向けて追悼するとともに平和への誓いを新たにしました。

終戦から80年を機に昨年から狛江市戦没者遺族会と狛江市との共催とし、名称も変更した。

伊豆美神社で七五三詣り

伊豆美神社が3日団、7日団、8日団、14日団、15日団の午前10時～午後3時に七五三詣りを受け付ける。5日間以外には予約が必要。

問い合わせ☎3489-8105伊豆美神社。